

暑熱対策・環境改善を提案

1 / 20 模型・気流実験映像・施工事例紹介などで

工場用陽圧換気空調システム訴求

業務用・産業用空調システムメーカーの木村工機（社長＝木村晃氏、本社・大阪市中央区上本町西5-3-5）は、15日から17日まで東京ビッグ

サイトで開催される「第12回東京猛暑対策展」に出展し、「工場用陽圧換気空調システム」を中心とした提案を行う。東京会場への出展は約11年ぶり。模型や映像を活用しながら、工場における暑熱対策と換気、環境改善の考え方を分かりやすく紹介する（ブース番号＝7-122）。

また、吹出口周辺の空気を誘引して風量を増加させる独自技術「誘引パインカー」も展示する。20年以上先まで冷温風を届ける気流技術に加え、結露防止や送風効率向上の仕組みについても紹介する予定だ。

展示では単なる製品紹介にとどまらず、実際の導入方法や施工事例にも焦点を当てる。ブース内には工場用陽圧換気空調システムの方や理論を紹介する

ゾーンに加え、施工事例や工事の流れを説明するコーナーも設置。導入相談や個別課題への対応を行う。さらに、空調機や外調機の運転を最適化するKD式空調制御盤について

今回のブースでは、工場用ゾーン空調機と工場用陽圧外調機を組み合わせた工場用陽圧換気空調システムを訴求する。空調機の気流が作業域全体をカバーする様子を再現した20分の1模型を展示するほか、気流実験映像



ブースイメージ

も紹介し、省エネルギー運用や設備管理の効率化提案につなげる。また、来場者との対話を深めるため、工場内の空気に関する困りごとをヒアリングし可視化する参加型企画も検討している。暑さや換気不足、気流の偏り、結露など現場の課題を共有しながら、改善策の提案につなげる考えだ。

も紹介し、省エネルギー運用や設備管理の効率化提案につなげる。また、来場者との対話を深めるため、工場内の空気に関する困りごとをヒアリングし可視化する参加型企画も検討している。暑さや換気不足、気流の偏り、結露など現場の課題を共有しながら、改善策の提案につなげる考えだ。

工場分野では熱中症対策への関心の高まりに加え、改正労働安全衛生規則への対応を背景として、換気や作業環境改善に対するニーズが拡大している。同社にも製造業や物流施設などから引き合いが寄せられており、高温設備周辺や開放型倉庫、防爆エリアなど、従来は空調対策が難しいときも増加している。

こうした背景には、従業員が暑熱対策だけでなく、製品品質や作業環境の維持に対する意識の高まりもある。湿気によるサビやカビ、結露の発生、品質低下や作業効率の悪化といった課題を抱える現場も少なくない。近年は、これまで暑熱対策をあきらめざるを得なかった現場や、部分的な対策だけでは十分な改善が難しかった現場からも

同社では暑熱対策を単なる冷房提案ではなく、工場内の空気質改善や品質維持、生産性向上にもつながる取り組みと位置付ける。今回の展示では、その考え方と具体的な導入手法を紹介し、人だけでなく製品や設備も含めた工場環境改善のあり方を来場者に提案していく考えだ。